

集落営農組織における園芸作導入・定着のポイント

【1 成果の概要】

近年、集落営農組織では、従業員の通年雇用やパートの就労機会の確保・拡大、水稻以外で利益部門を確保することなどを目的として、園芸作導入の取組が増加していますが、収量が低い、労働費がかかり儲からない等の課題が発生しています。

県内で園芸作を導入し、取組状況が良好である集落営農法人（7経営）の取組実態から、園芸作の導入・定着のための6つのポイントを下表のとおりまとめました。

導入・定着のポイント	ポイント達成のための取組・確認事項
(1) 経営課題の整理及び導入目的の明確化と組織内共有	1) 経営の現状分析 や 課題の整理 (品目毎の経営収支、労働力・機械装備・後継者等) 2) 園芸作導入の 必要性の検討 及び 導入目的の明確化と組織内で共有
(2) 園芸品目の栽培特性の理解	1) 水田における園芸品目は 排水対策が必須 であることを理解 2) 水稻・麦・大豆に比べ きめ細かな管理が必要 であることを理解 (肥培管理・除草・病虫害防除等) 3) 収穫や調製に労力がかかる ことを理解
(3) 経営資源や販売を考慮した品目選定	1) 組織内や地域の経営資源(労働力・機械等)を活用 できる品目か 2) 出荷体制や販売先の確保 ができているか
(4) 導入品目を想定した経営計画の作成	1) 導入品目の生産コスト等の算出、労働力や作業機械の能力を踏まえた 適切な栽培面積のシミュレーション 2) 導入を想定した 実現可能な経営計画作成
園芸部門を統括するリーダーや工程管理を担う人材確保及び取組体制の構築	1) 栽培技術、作業分担や指示、出荷や販売戦略など 園芸部門全体の進行管理を担う人材確保・体制づくり 2) スケジュール・工程管理、作業手順の可視化、 適期作業のための人員配置
(6) 目標収量を確保するための栽培技術の習得と実践	1) ほ場選定や排水対策、土づくり を始めとした、水田における園芸品目の 栽培管理技術の習得と実践

【2 効果】 集落営農組織における園芸作の導入検討や導入後の取組の参考となります。

【3 留意事項】 「指導機関等に求められる支援方策」や内容の詳細は、別途作成している試験研究成果書や成績書を参照してください。

【4 適応対象】 集落営農組織への経営改善支援等を行う普及センター・農協担当者等